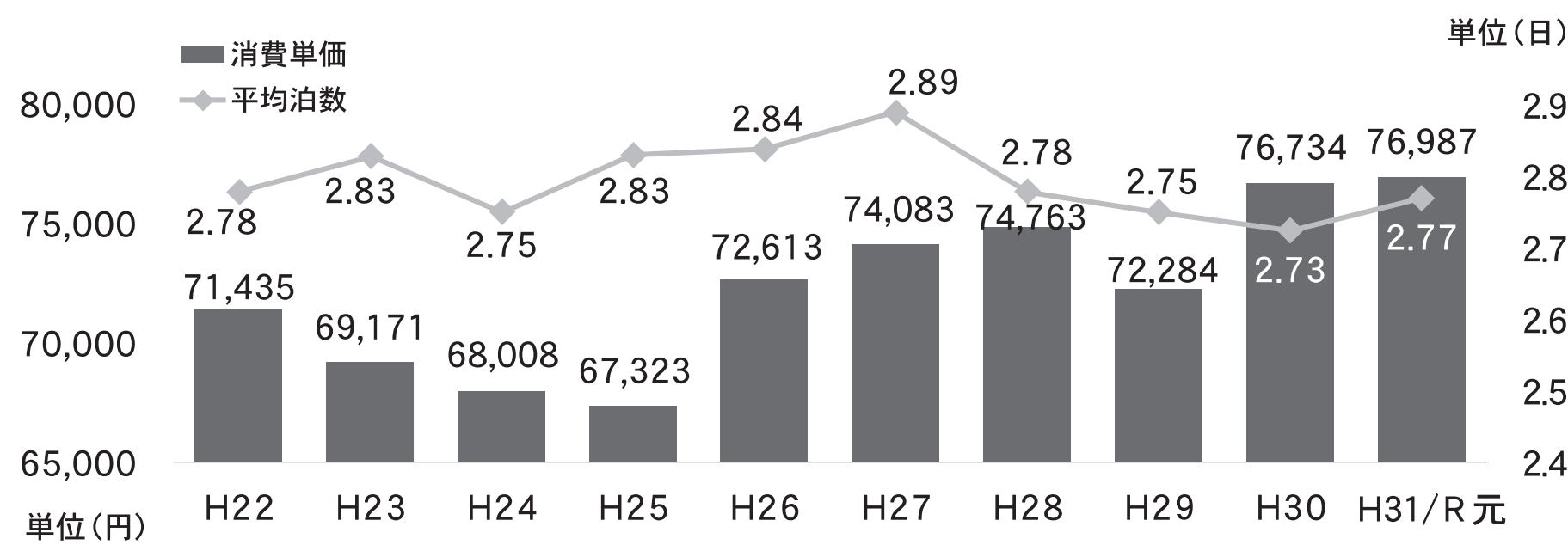


国内客の消費単価は0.3%増の7万6987円

平均泊数と消費単価推移（過去10年）

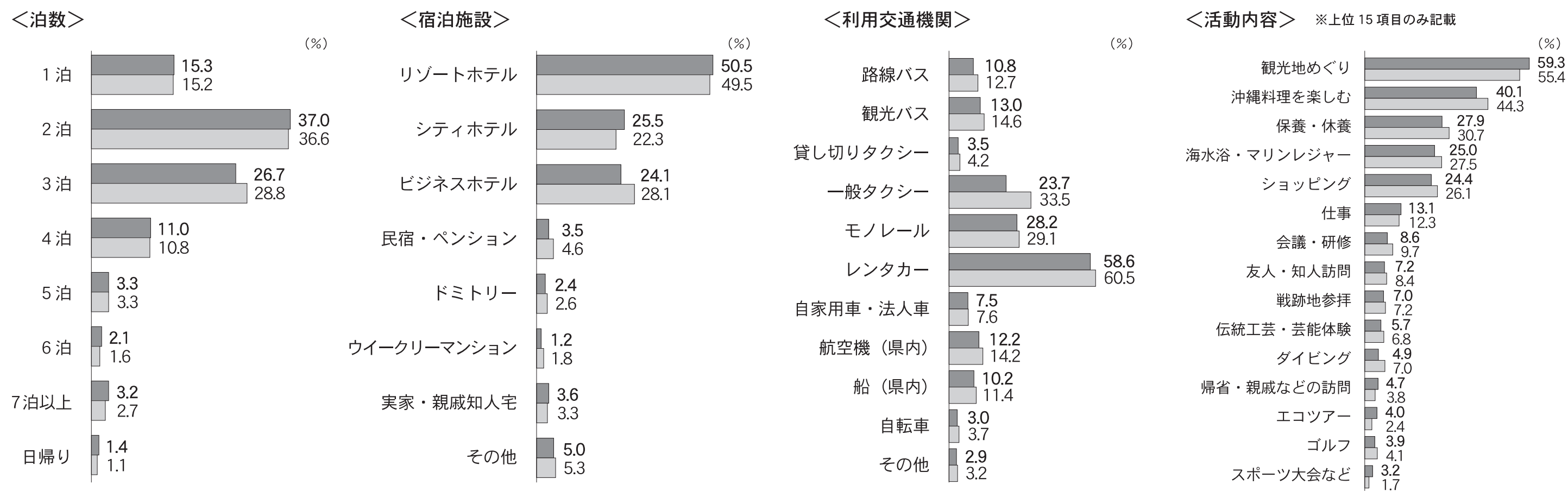


沖縄県

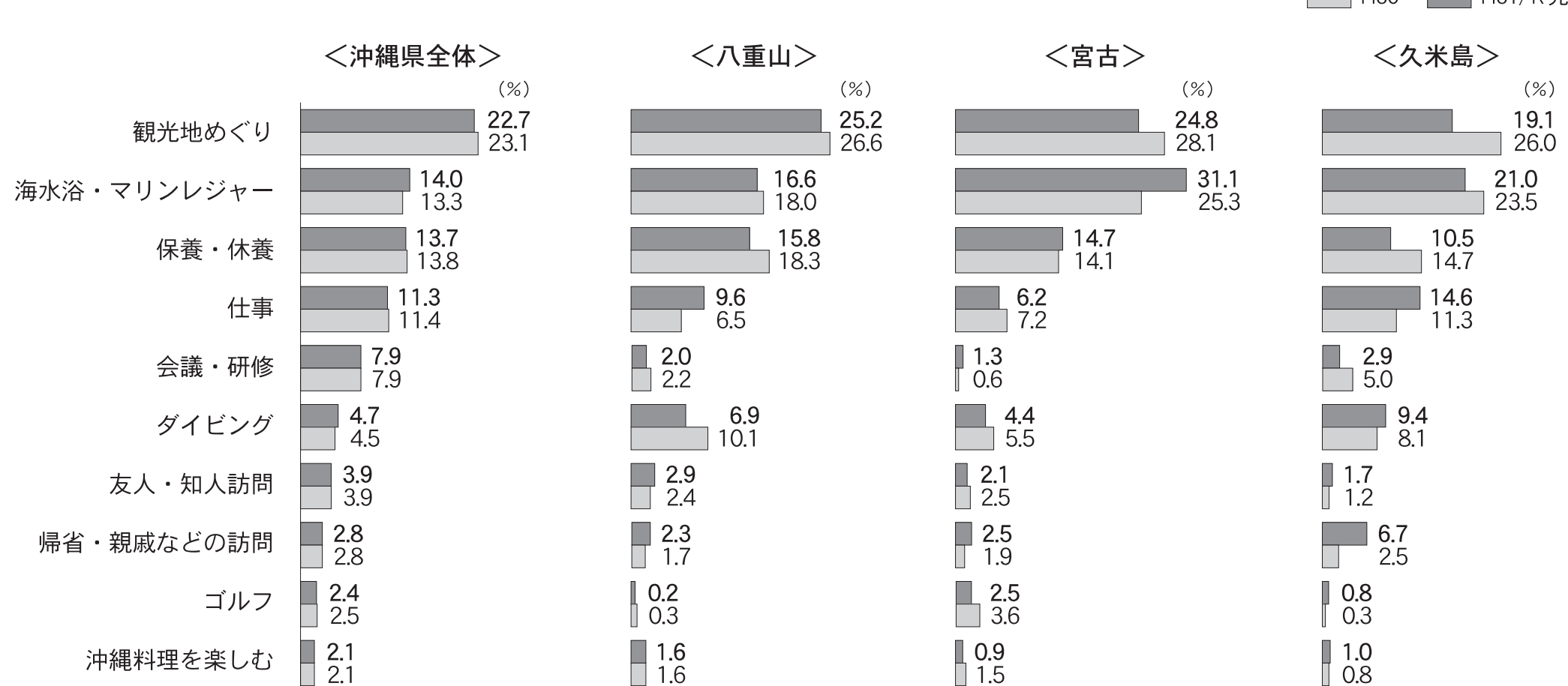
令和元年度観光統計実態調査

沖縄県は5日、沖縄を訪問する日本人客を対象とした「令和元年度観光統計実態調査」の結果を発表した。調査は日本人による沖縄観光の実態についてより正確な把握、分析を行い、実効性の高い観光施策の企画、立案、評価につなげることを目的としたもの。国内客の消費単価は対前年度比0.3%増となる7万6987円、平均泊数は0.04日増の2.77泊だった。

沖縄での旅行内容



来訪した一番の目的

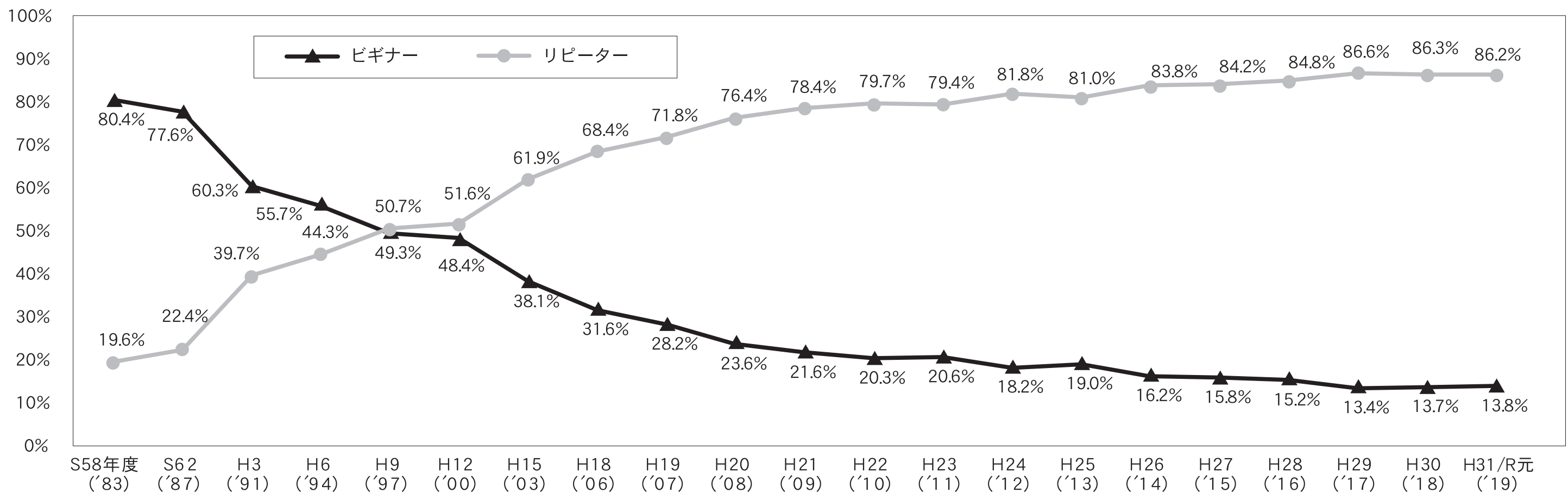


調査対象者は、航空機を利用して県内4空港(那覇、久米島、宮古、石垣)から県外へ出域する日本人客と、主要離島空港から那覇へ出域する日本人客、宮古・石垣間を移動する県民客(県民客は調査対象離島の県外に居住する者)。修学旅行生は除いている。国内客の消費単価は7万6987円、対前年度比で0.3%の増加となった。項目別では、土産・買物費と飲食費は前年度よりも増え、宿泊費、県内交通費、娯楽・入場費は減少した。平均泊数は2.77泊となり、前年度から0.04日増加。第1、第4四半期が増加しており、年間を通じた平均泊数増に影響を与えた。沖縄での旅行内容について見ると、平均泊数の内訳では、「6泊以上」が微増。宿泊施設では、「シティホテル」の割合が増加し、「ビジネスホテル」

リピーター率は年々上昇

が減少した。利用交通機関は全体的に減少しており、特に「一般タクシー」の減少幅が大きい。活動は、「観光地めぐり」や「仕事」「帰省・親戚などの訪問」「エコツアー」「スポーツ大会など」が増えている。来訪した一番の目的について、最も多く選択されたのは前年度と同じく「観光地めぐり」だが、県全体と八重山、宮古、久米島の離島の全てで前年度から減少。「マリトレジャー」「ダイビング」は、対前年度の増減傾向が県全体と3離島でそれぞれ異なる。前年度減少した「仕事」は、八重山、久米島で増加に転じた。

初回来訪率とリピーター率の推移（昭和58年度～）



※出所:沖縄県「観光統計実態調査」 ※H12年度、H15年度、H18年度は航空機内で行った大規模調査による数値